



目標—指導—評価の一体化のための学習評価



中学校保健体育のポイント



中学校保健体育における学習評価について、評価の計画から評価の総括までの一連の流れを説明します。

第1学年

単元 球技：ゴール型（サッカー）

内容のまとめり

第1学年及び第2学年「E 球技」



1 単元の目標の作成

※学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成します。

※生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成します。

単元の目標

- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性（や成り立ち）、技術の名称や行い方、（その運動に関連して高まる体力）（など）を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。
ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- (3) （球技に積極的に取り組むとともに）、（フェアなプレイを守ろうとすること）、（作戦などについての話し合いに参加しようとする）、（一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする）、仲間の学習を援助しようとする（など）や、健康・安全に気を配ることができるようにする。

本事例では、単元の目標は学習指導要領「2 内容」を踏まえ、第1学年及び第2学年の目標をすべて記述した上で、「表1 A 中学校における年間指導計画の例」の球技①～⑤の5回の単元設定の中から、①のサッカーにおける単元の目標を明示するため、他の単元で指導し評価する部分については、（ ）で示しています。

2 「単元の評価規準」の作成及び指導と評価の計画の作成

【手順1】内容の取扱いを踏まえ、年間指導計画に各単元を位置付ける

学年	時間	4			5			6			7			9			10			11			12			1			2			3		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
第1学年及び第2学年	105	オリエンテーション 理論 [1]	陸上競技 [10] 短距離・リレー(5) ハードル(5)		① 球技・ゴール型 バスケットボール・サッカー選択 2クラス2展開 [10]			水泳 クロール・平泳ぎのいずれかを含む2以上選択 [10] * 外部指導者のTTIによる協力			武道 (柔道・剣道のいずれかを選択) 2クラス2展開 [14] * 外部指導者のTTIによる協力			器械運動 マット運動(7) 跳び箱運動、鉄棒運動、平均台運動より1選択(7) [14]			② 球技・ネット型 バレーボール・テニス選択 2クラス2展開 [8]			スケート [6] 集中														
	105	体づくり運動 [3] 理論 [1]	陸上競技 [8] 跳躍種目選択 走り高跳び・走り高跳び 2クラス2展開	③ 球技・ネット型 バレーボール・バドミントン選択 2クラス2展開 [10]			水泳 クロール・平泳ぎのいずれかを含む2以上選択 [10]			④ 球技・ベースボール型 ソフトボール① ソフトボール② 2クラス2展開 [12]			ダンス 創作ダンス(9) フォークダンス(9) 2クラス2展開 [18] * 外部指導者のTTIによる協力			⑤ 球技・ゴール型 ハンドボール・サッカー選択 2クラス2展開 [10]			スキー [6] 集中															
			保健 (1)生活習慣病などの予防／喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 [8]			体づくり運動 [2]			理論 [1]			保健 (2)心身の機能の発達 [6]			保健 (2)心の健康 [6]			陸上競技 [4] 長距離走			理論 [1]			体づくり運動 [3] 組み合わせ										
									保健 (3)傷害の防止 [8]									陸上競技 [4] 長距離走			理論 [1]			体づくり運動 [3] 組み合わせ										

【手順2】 2年間を見通して、指導事項をバランスよく配置する

例示等で示された2年間の指導事項について、実施時期や配当時間等を踏まえ配置します。

図1 第1学年及び第2学年「球技」における2年間を見通した指導事項の配置の例

指導事項	① 球技・ゴール型 バスケットボール・サッカー選択 2クラス2展開 [10]										② 球技・ネット型 バレーボール・テニス選択 2クラス2展開 [8]								③ 球技・ネット型 バレーボール・バドミントン選択 2クラス2展開 [10]										④ 球技・ベースボール型 ソフトボール①・ソフトボール② 2クラス2展開 [12]												⑤ 球技・ゴール型 ハンドボール・サッカー選択 2クラス2展開 [10]										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
知識	1. 球技の特性	●									●								●										●												●										
	2. 成り立ち																																																		
	3. 技術の名称や行い方	○	○								○	○						○	○								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
技能 ゴール型	4. 関連して高まる体力																																																		
	1. 守備者がいない位置でシュート	●																																																	
	2. マークされていない味方にパス																																																		
	3. 得点しやすい空間にいる味方にパス																																																		
	4. ボールをキープする																																																		
	5. ボールとゴールが同時に見える場所に立つ																																																		
	6. ゴール前の空いている場所に動く																																																		
7. 相手をマークする																																																			
ネット型 ベースボール型	略									●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●															
	略																																																		
思考力、判断力、表現力等	1. 仲間の課題や出来映えを伝える																																																		
	2. 課題に応じた練習方法を選ぶ																																																		
	3. 学習した安全上の留意点を仲間に伝える																																																		
	4. よい取組を見付け、理由を添えて他者に伝える																																																		
	5. 分担した役割に応じた活動の仕方を見付ける																																																		
	6. チームへの関わり方を見付ける																																																		
	7. 仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け仲間に伝える																																																		
学びに向かう力、人間性等	1. 積極的に取り組もうとする																																																		
	2. フェアなプレイを守ろうとする																																																		
	3. 話合いに参加しようとする																																																		
	4. 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとする																																																		
	5. 仲間の学習を援助しようとする																																																		
	6. 健康・安全に留意する	●								●						●									●												●														

●重点指導機会 ○複数回での指導機会 *評価対象とせず指導する機会

【手順3】 例示等を基に、第1学年及び第2学年の内容のまとめ（「球技」）における全ての「単元の評価規準」を設定する。

第1学年及び第2学年「球技」の全ての「単元の評価規準」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて、言ったり書き出したりしている。 球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、学習した具体例を挙げている。 球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。 	<p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 マークされていない味方にパスを出すことができる。 得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。 ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。 パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。 ボールを持っている相手をマークすることができる。 <p>※ネット型、ベースボール型は省略</p>	<ul style="list-style-type: none"> 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。 作戦などについての話合いに参加しようとしている。 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 健康・安全に留意している。

【手順4】当該単元における「単元の評価規準」を設定する

※ここでは、【手順2】で示した、中学校第1学年「球技」（ゴール型）に配置された指導事項に対応した単元の評価規準の設定を記載しています。

第1学年「球技」（ゴール型）の「単元の評価規準」の例

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>○技能</p> <p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。</p> <p>②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p>	<p>① 掲示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>② 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>③ 仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p>	<p>① 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>② 健康・安全に留意している。</p>

【手順5】当該単元における具体的な指導内容の明確化を図る

単元の目標の実現には、具体的な指導を充実した上で、「単元の評価規準」により評価を行うことが重要です。そのため、学習指導要領解説の記載等から、生徒の学習状況を実現するための具体的な指導内容を明確にします。

具体的な指導内容と「単元の評価規準」

知識及び技能		思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
知識	技能		
<p>ゴール型球技は、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを打ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うことが楽しい運動であること。</p> <p>↓</p> <p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>↓</p> <p>ボール操作には、シュートやパス、ボールをキープする技術の名称があること。それらを身に付けるポイントがあること。</p> <p>↓</p> <p>②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>ゴール方向に守備者がいない位置に移動した時にシュートを打つこと。</p> <p>↓</p> <p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。</p> <p>↓</p> <p>フリーの仲間を見付け、相手の動きに合わせてパスを送り出すこと。</p> <p>↓</p> <p>②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>↓</p> <p>ボール保持者とゴールが見える位置に移動し、ボールを受ける準備姿勢をとること</p> <p>↓</p> <p>③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p>	<p>成功例、つまずき例などの事例や、シュート、パス、キープのポイントを提示し、仲間の動きと比較し、伝えること。</p> <p>↓</p> <p>① 掲示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>↓</p> <p>活動時間の確保やグループの人間関係がよくなるといった目的を伝え、用具の準備や後片付け、記録や審判などの分担した役割における自身の活動の仕方を見付けること。</p> <p>↓</p> <p>② 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>↓</p> <p>仲間の意見をしっかりと聞く、自身の意見を述べるなどの話し合いへのマナーを提示し、参加の仕方を見付けること。</p> <p>↓</p> <p>③ 仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p>	<p>仲間の学習を援助することは、自己の能力を高めたり仲間との連帯感を高めて気持ちよく活動することにつながるという目的に適した仲間との関わり方があること。</p> <p>↓</p> <p>① 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>↓</p> <p>体調の変化などに気を配ること、ボールなどの用具の扱い方やゴールの設置状態、練習場所などの自己や仲間の安全に留意すること、技能の難易度や自己の体力や技能の程度に合った運動をすることが大切であること。</p> <p>↓</p> <p>② 健康・安全に留意している。</p>

【手順6】指導と評価の計画を作成する

単元の目標、内容、評価規準が具体化され、指導場面や評価機会が関連付けられた指導と評価の計画を作成します。その際、目標の実現に向けて、指導したことを評価すること、「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への指導の充実が速やかに図ることができるよう、評価機会を適切に設定することなどに留意が必要です。

図3 「球技」（ゴール型：サッカー）第1学年における指導と評価の計画の例

単元の目標		知識及び技能	次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や（成り立ち）、技術の名称や行い方、（その運動に関連して高まる体力）（など）を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。									
		思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。									
		学びに向かう力、人間性等	（球技に積極的に取り組むとともに）、（フェアなプレイを守るようにすること）、（作戦などについての話し合いに参加しようとする）、（一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする）、仲間の学習を援助しようとする（など）や、健康・安全に気を配ることができるようにする。									
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	授業づくりのポイント	
学習の流れ	0	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動										<ul style="list-style-type: none"> ・三つの資質・能力の内容をバランスよく指導する。 ・動きの獲得を通して、知識の大切さを一層実感できるようにする。 ・汎用性のある知識を精選した上で、知識の精学習を基盤とした学習の充実を図る。 ・ゴール前の空間の攻防をめぐりやすいう数、コートの上の制限を工夫したゲームを取り入れる。 ・練習やゲームでは、即しよ返ることができ、学習の振り返りや質を高めていく。 ・仲間への助言や安全など留意する具体的な理解と結び付けて指導する。
	10	オリエンテーション	ボール操作		ボール操作の反復練習						最終リーグ戦Ⅱ	
	20		シュートパストラップ	空間に走り込むなどの動き ボールとゴール	課題の確認と解決の練習 ボール空間に走り込む 課題伝達 役割見付け	ゲームⅠの修正						
	30	ボール慣れゲーム	シュートゲーム ゲーム記録の活用	グリッド突破ゲーム 仲間の即時の助言	簡易ゲームⅠ 人数・コート・ルール等の簡易化	最終リーグ戦Ⅰ	単元のまとめ					
	40	整理運動・学習の振り返り・次時の確認										
50												
評価機会	知	①	(②)	(②)		②					総合的な評価	学習カード
	技			①		②	③					観察
	思						②	①		③		学習カード、観察
	態		②		①							観察、学習カード
単元の評価規準	知	①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。										
	技	②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。										
	思	①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。										
	態	②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。										

3 観点別学習状況の評価の進め方

○指導と評価の一体化に向けた観点別学習状況の評価の活用

単元途中の観点別学習状況の評価は、生徒一人一人の学習状況を明確にし、生徒の学習改善につなげると同時に、教師の指導の成果や課題を明らかにするものです。このことから、観点別学習状況の評価は、単元の終末にまとめて行うものとして捉えるのではなく、指導場面に対して評価の機会を検討し設定することが重要です。

また、生徒の学習状況を的確に把握するため、日々の授業での一人一人の様子を評価補助簿等に記録し、特に、「努力を要する」状況（C）の生徒に対して手立てを講じることが重要です。例えば、評価した結果を具体的な言葉かけなどにより生徒に返して学習の改善を促したり、教師の指導の手立てを修正したりするなど、評価を指導に生かしていきます。併せて、「十分満足できる」状況（A）の生徒の把握にも努め、個別の課題を与えるなどの指導を行います。

4 観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括の考え方

○観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括を行うに当たっての留意事項

- (1) 指導と評価の一体化の考え方を踏まえると、体育分野で育成を目指す資質・能力に対応した指導内容をバランスよく指導し評価することが求められます。
- (2) 観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括を行うに当たっては、各単元への配当時間数や指導事項に対応した評価規準数を考慮するのか、観点別学習状況の評価を評定へ総括する際に観点ごとに比率を設定するのか等も含め、観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括についての考え方や方法を、各学校において十分検討しておく必要があります。
- (3) シラバスやオリエンテーション等の機会を通して、事前に生徒及び保護者等に対して十分な説明をしておくことが重要です。